【件名】

カラス及び鳶について

【内容】

坂の下、由比ヶ浜、材木座海岸のカラス及び、鳶の数が異常に増えて、以前より危険な食べ物を奪う行為がかなり頻繁になりました。先日も家内が指をケガをしました。小さい子供めがけて襲ってくる鳶の姿は、見てられない程危険です。又異常なカラスの集団に対しても、何もしない市の対応は国際的な都市をめざす鎌倉市としても、非常にお粗末で、恥ずかしいと感じています。至急対応策をお願いしたいと思います。交差点付近ではドライバーにも少なからず影響しています。このままでは夏の海水浴シーズンに大事故が起きてても不思議では有りません。

【回答】

本来、カラスやトビは警戒心が強く人間には安易に近寄らないことが多いのですが、安易な餌付け行為や人のそばにある生ごみを漁ることなどにより、それほど人を恐れない習性を得てしまいます。

トビが人の食べ物を狙う理由として、安易な餌付け行為により人間の食べ物の味を覚えてしまったことによると考えられます。本市としては、海岸の管理者である神奈川県と連携し人身被害についての注意や餌付け防止の啓発を行う看板を設置すること等により、被害の防止、軽減に努めています。

また、群れでいるカラスの多くは、繁殖年齢に至らない若い鳥であるといわれ、繁殖ができるようになるまで若鳥同士で群れをつくり、比較的広い行動圏を持って行動しているようです。群れで行動する理由はいくつかあるようですが、探す目が多くなることで食べ物を見つけるやすくなるともいわれ、海岸近くは食べ物が豊富な場所であると思われます。また、カラスが増えすぎた原因のひとつに、人が出す生ごみを食料にしていることがあげられ、生ごみをカラスの食料にさせないことが個体数を減少させる対策のひとつとして有効であると考えられます。今後も、地域のみなさまのご協力を得ながらカラスによる被害の軽減を図ってまいります。

カラスやトビなどの野生鳥獣は、鳥獣保護管理法によりむやみに捕獲することはできません。生活環境被害、農林水産業又は生態系に係る被害を防止する場合などに有害鳥獣として捕獲することができます。

しかし、野生鳥獣は、自然を構成する大切な要素としての役割も担っており、自然環境を豊かにするものであると同時に、人にとっても豊かな生活環境を形成する上で重要な要素でもあります。

本市としては、カラスやトビなどの有害鳥獣化を防ぐために餌付け行為をやめていただくなどマナー向上の啓発や注意喚起を行ってまいります。野生鳥獣に対する短期間での効果は困難な面もありますが、引き続き被害防止に取り組んでまいります。

平成 27 年 6 月 19 日対応／回答